



シニアプログラム

地域医療研究所
地域医療研修センター

目 次

地域医療振興協会とは.....	3
プログラムの理念・特色.....	3
研修目標（アウトカム）.....	4
一般目標.....	4
到達目標.....	4
研修内容の概要.....	5
ローテートパターン.....	6
特徴ある教育体制.....	7
外部講師、野口アラムナイとの連携.....	7
研修計画設定プロセス.....	7
主な年間スケジュール.....	8
評 価.....	8
評価項目.....	8
評価基準.....	9
プログラム修了後.....	10
認定取得資格.....	10
修了後の進路.....	10
研修医・修了生の声.....	10
修了生の声 シニアプログラム修了生 松下 公治.....	10
募集要項.....	11

公益社団法人 地域医療振興協会
地域医療シニアプログラム「地域医療のススメ」

地域医療振興協会とは

へき地等の医療の確保と質の向上を図り、もって地域の振興を図る

医療を取り巻く環境は急速に進み、大都市圏で医師過剰が叫ばれる一方で、山間部や離島と行ったへき地では、日常の医療を担う医師もままならないのが現状です。社団法人地域医療振興協会は、こうした地域医療の問題を解決し、へき地を中心とした地域保健医療の調査研究および地域医学知識の啓発と普及を行うことを目的に設立されました。地域



医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、つねに地域保健医療の確保と質の向上等住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。

プログラムの理念・特色

へき地診療所を含む、地域医療の専門医育成が、本プログラムの最大の目的です。地域医療とは、へき地に限ったことではありません。都市部にも地域医療が存在します。ただ、へき地に焦点を当てて研修すれば、都市部での地域医療もおのずと見えてくるはずで

す。プログラム責任者を含むコアとなる指導医は、いずれもへき地での臨床経験が長く、EBMを忙しい臨床現場においても使いこなし、患者中心の医療の方法を役立て、行動科学の手法も加えながら、倫理的な問題にも向き合い、保健、予防、介護、福祉の現場での経験も豊富な医師たちです。また、教育手法、臨床研究についても多くのノウハウを有しています。

プログラムの特色は、地域医療研修センターによる研修支援と、研修施設が多様なことです。研修施設は、離島診療所、山間へき地の診療所、小病院など多様で、それぞれの施設には、その地域で長く勤める指導医がおり、地域に根ざした医療機関ならではの研修が可能です。

また地域医療研修センターは、レジデントを対象とした講習会やワークショップ、サイトビジット（各地に散らばるレジデントを訪問する）、研修振り返り、評価を定期的を実施し、開始から修了まで継続してレジデントをフォローアップします。

「地域医療のスズメ」ができるまで

この研修プログラムは、オレゴン健康科学大学（OHSU）家庭医療学 Robert B. Taylor 教授（国際顧問）など海外講師を招聘し、2002 年から計 12 回開催された「地域志向型」研修プログラムに関するワークショップの成果に基づいています。

2005 年 8 月「後期研修プログラムに関するワークショップ」で地域医療現場の指導医、将来地域医療の現場で働こうと考える研修医、地域医療研修センター指導医が一堂に会して意見を出し合い議論して、最終的に作り上げたものです。

研修目標（アウトカム）

一般目標

後期研修を修了した研修医が、地域ニーズに応え、地域住民に信頼される保健・医療・福祉サービスを提供するために、求められる役割に応じて協調、変容でき、あらゆる問題に対応できる能力を楽しく身に付ける。

到達目標

1. 診療

- へき地診療所で外来診療を自立しておこなうことができる。
- 地域病院で救急当直を自立しておこなうことができる。
- 地域で求められる検査（上部消化管内視鏡、腹部・心臓超音波）を自立しておこなうことができる。
- 地域病院で病棟管理を自立しておこなうことができる。
- へき地診療所・地域病院で短期の代診業務ができる。
- EBM のプロセスに則って診療ができる。
- 患者、家族、地域を視点としたアプローチができる。

2. 地域包括ケア

- 地域包括ケアの概念・理念を述べることができる。
- 地域の保健・福祉・介護の資源を適切にコーディネートし、地域医療を担うチームの一員として医療を提供することができる。
- 在宅医療を計画・実施・評価できる。
- 職員と良好な人間関係を構築できる。
- 地域保健について、評価、支援、実践することができる。
- 福祉分野と連携できる知識・行動力を身につける。
- 介護分野と連携できる知識・行動力を身につける。

- その地域の地域診断ができる。
- 他の医療機関と適切に連携をとることができる。
- 地域住民と交流する機会をもち、パートナーシップを築くことができる。

3. マネージメント

- 医療経済の視点を持って診療所を運営できる。
- 職員と良好な人間関係を構築できる。
- 患者および医療従事者の安全管理の方策を身に付け、危機管理にリーダーとして参画する。
- 地域保健医療の確保のため、緊急の支援に適切に応えることができる。

4. 生涯学習・教育・リサーチ

- 自己評価、同僚評価、外部評価を受け入れ、継続的学習をすることができる。
- 地域で求められることを後輩・他職種にわかりやすく教えることができる。
- Clinical Epidemiology・Biostatistics・Health-Social Science の基本について初期研修医に教育できる。
- 地域の問題点を適切に把握し、問題解決のために具体的な研究・事業計画を立てることができる。
- 地域を舞台とした研究に参加し、発表・投稿する

5. 私生活

- 地域での生活を楽しむことができる。
- 医療を継続して提供するために、安定した生活を営むことができる。
- 自己のストレスマネジメントができる。

研修内容の概要

研修指定病院

横須賀市立うわまち病院
市立伊東市民病院
東京北社会保険病院
市立奈良病院
市立大村市民病院

公立丹南病院
日光市民病院
西吾妻福祉病院
湯沢町保健医療センター
山中温泉医療センター
市立恵那病院
公立黒川病院
村立東海病院
飯塚市立病院
上野原市立病院
台東区立台東病院

地域病院

石岡第一病院
共立湊病院

東京ベイ・浦安市川医療センター

伊豆下田病院

女川町立病院

池田町立病院

(協会外施設)

公立長生病院

西伊豆病院

公設宮代福祉医療センター

いなずさ診療所

地域包括ケアセンターいぶき

おおい町保健・医療・福祉総合施設

志摩地域医療福祉センター

奈良市立柳生診療所

奈良市立田原診療所

奈良市立都祁診療所

奈良市立月ヶ瀬診療所

山北町立山北診療所

上野原市立病院附属秋山診療所

明日香村国民健康保険診療所

へき地診療所等

六合温泉医療センター

安良里診療所

揖斐郡北西部地域医療センター

(山びこの郷)

東通村診療所

白糠診療所

田子診療所

磐梯町保健医療福祉センター (瑠璃の里)

日光市立奥日光診療所

揖斐川町春日診療所

(協会外施設)

六ヶ所村国民健康保険尾駁診療所

石岡・平本皮膚科医院

東京都神津島村国民健康保険直営診療所

小笠原村診療所

郡上市地域医療センター国保和良診療所

福智町立方城診療所

オレゴン健康科学大学

ローテートパターン

研修指定病院または地域病院 基本的に内科・救急・小児科（3か月必須）として勤務	9～12か月
へき地診療所・地域病院 単独で勤務することなく、指導医のいる診療所、病院で研修	6～12か月
選択 整形外科外来、皮膚科外来、眼科外来、耳鼻科外来、脳外科、放射線科 オレゴン健康科学大学家庭医療学(OHSU)、研修センター、国内留学など	6～9か月
プロジェクト (社) 地域医療振興協会関連施設やへき地の医療施設において、予定外の医師不足が発生したり、医師の支援が必要となったりした場合に、地域や施設に支援・運営・立ち上げを研修目的として派遣する事業支援。	3か月単位 3年間で 9か月

特徴ある教育体制

地域医療研修センターのサポート

地域医療研修センターには地域医療経験のある指導医が在籍し、研修施設と連携をとりながら、研修医教育、研修プログラムの作成、研修環境の整備・調整を行っています。

地域医療研修センターでは、これまでは以下のような活動を行っています。

- 合同オリエンテーション
- サイトビジット、ポートフォリオ相談会などによる個別フィードバック
- 研修医主催の勉強会への支援
- 研修施設説明会の開催
- 地域志向型指導医養成講習会の開催
- e-learning コンテンツ作成

外部講師、野口アラムナイとの連携

JADECOM-NKP プログラムと連携・相互乗り入れしながら、外部講師による充実した教育活動の整備を進めています。

研修計画設定プロセス

研修医のニーズ、指導医のニーズを重視し、研修医・指導医が共につくる研修を大切にしながら、研修センターが教育・学習の観点から調整・アドバイスをを行います。

個別プログラムのための事前評価

研修センタースタッフ、研修医による個別の能力評価（これまでの研修記録、面談などによる）を行います。

個別プログラムのためのニーズ・アセスメント

研修医療機関の指導医、研修医によるニーズ・アセスメントを行います。

- 施設研修担当者：その医療機関で提供できるプログラム、業務との関係などから、研修病院側で提供できる現実的なプログラムとシニアレジデントとして求めたい業務や役割について提案します。
- 研修医：個別の研修ニーズ、将来像などから行いたい研修内容を提案します。
- 研修センタースタッフ：研修医の事前能力評価、研修医ニーズ、指導医（医療機関）ニーズなどを踏まえて教育的見地、研修医の個別性などを考慮し、サイトビジットを行い、評価・調整を行います。

個別プログラムの作成

- 研修施設は、研修担当者と相談して決定します。

- 個別プログラム内容は、施設の研修担当と相談して決定します。
- プロジェクトは協会として年度毎に定めた「プロジェクト研修該当施設」から研修施設、研修時期を研修担当者と相談して決定します。

個別研修プログラムの評価

- 評価の時期に、指導医、研修医、研修センタースタッフによる、アンケート、面談などを通して評価を行います。
- 中間評価（モニタリング）時の内容を受けて、プログラムの修正を行います。
- あらかじめ決めた最終評価時に研修医の到達度評価とプログラム評価を行います。
- 研修医、研修指導医、研修センターなどの関係者からのアンケート、ヒアリングなどによる個別のフィードバックを行い、それらをもとに次年度の研修プログラムを作成します。

主な年間スケジュール

- 5月 : 新1年目シニアレジデント歓迎会
- 8月 : へき地・地域医療学会にて外部講師による講演
- 10月 : 1～3年目中間振り返り
- 2月 : ポートフォリオ勉強会
- 3月 : 3年目シニアレジデント終了評価

評 価

実際の臨床実践や業務に基づく評価（work-based assessment）を原則とします。修了評価はOSCEとポートフォリオ評価を実施しています。2009年度の評価概要は以下の通りです。

評価項目

- 1 研修医による自己評価
- 2 指導医による評価
- 3 ポートフォリオ評価
 - 3.1 患者、家族、地域を視点としたアプローチができる。
 - 3.2 以下のうちいずれかひとつ
 - 3.2.1 地域保健について、評価、支援、実践することができる。
 - 3.2.2 福祉分野と連携できる知識・行動力を身につける。
 - 3.2.3 介護分野と連携できる知識・行動力を身につける。
 - 3.3 以下のうちいずれかひとつ
 - 3.3.1 地域住民と交流する機会をもち、パートナーシップを築くことができる。
 - 3.3.2 地域での生活を楽しむことが出来る。
 - 3.3.3 医療を継続して提供するために、安定した生活を営むことが出来る。
 - 3.3.4 自己のストレスマネジメントが出来る。

- 3.4 以下のうちいずれかひとつ
 - 3.4.1 その地域の地域診断ができる。
 - 3.4.2 医療経済の視点を持って診療所を運営できる。
 - 3.4.3 地域の問題点を適切に把握し、問題解決のために具体的な研究・事業計画を立てることができる。
 - 3.4.4 地域を舞台とした研究に参加し、発表・投稿する
- 3.5 患者および医療従事者の安全管理の方策を身に付け、危機管理にリーダーとして参画する。
- 3.6 自己評価、同僚評価、外部評価を受け入れ、継続的学習をすることができる。

4 実績報告

- 4.1 研修記録書
- 4.2 代診実績概要
- 4.3 診療情報提供書

5 OSCE

- 5.1 へき地診療所で外来診療を自立しておこなうことができる。
- 5.2 地域病院で救急当直を自立しておこなうことができる。
- 5.3 以下の項目の複合的評価
 - 5.3.1 EBMのプロセスに則って診療ができる。
 - 5.3.2 地域で求められることを後輩・他職種にわかりやすく教えることができる。
 - 5.3.3 Clinical Epidemiology・Biostatistics・Health-Social Scienceの基本について初期研修医に教育できる。
- 5.4 以下の項目の複合的評価
 - 5.4.1 地域の保健・福祉・介護の資源を適切にコーディネートし、地域医療を担うチームの一員として医療を提供することができる。
 - 5.4.2 在宅医療を計画・実施・評価できる。
 - 5.4.3 職員と良好な人間関係を構築できる。

6 評価面接

評価基準

事前課題および実技・面接評価結果をもとに評価委員会で審査し、一定の基準を満たす者にシニアプログラム修了認定を与える。(2009年度は9名受験し、9名が合格)

プログラム修了後

認定取得資格

日本家庭医療学会（2010年4月以降は、日本プライマリ・ケア連合学会に移行）よりプログラム認定を取得しており、本プログラム修了後は家庭医療専門医認定審査のための試験の受験資格が得られます。

修了後の進路

研修終了後は、義務ではありませんが、是非へき地医療の現場で働いていただきたいと考えています。しっかりした研修ができれば、へき地医療の現場はやりがいがあり、楽しい職場です。

さらにへき地医療の現場にとどまらず、以下のような多様な選択肢があります。へき地医療を目指した研修は、へき地医療の現場にとどまらず、世の中の幅広い医療ニーズにこたえることを可能にします。

- へき地診療所の医師として
- 研修指定病院で研修医教育の中心となる医師として
- 地域病院で診療科の枠を超えたジェネラリストとして
- 地域医療研修センター教育専任医師として
- 大病院の総合診療部医師として
- 海外留学（OHSU など）
- その他、臓器別専門医の研修、開業、公衆衛生、医療行政など、新たな道へ進む場合にも積極的にバックアップします。

研修医・修了生の声

修了生の声 シニアプログラム修了生 松下 公治

「何でも診られる医師」を目指して

学生時代、「何でも診られる医師」になりたいと漠然と思っていました。しかし、現実には臓器別の専門に分かれた診療科を選ばなければいけませんでした。そうした時に総合医・家庭医といったプライマリ・ケアを担う医師がいることを知りました。学生の時に行った沖縄の離島で、1人の医師が島の医療を担っている姿に驚きと感銘を受けました。

5年間の研修で、都会の総合病院、地域病院、地域の診療所、離島の診療所、米国臨床留学など幅広い経験を積む事ができました。家庭医療科、総合診療科、内科、循環器科、呼吸器科、腎臓内科、外科、救急部、産婦人科、小児科、整形外科、麻酔科、精神科、耳鼻科などで幅広く研修することができました。

しかし、研修していく中で、「何でも診られる医師」は簡単なようで難しいことが、次第に分かってきました。各科の知識や技術だけでも膨大ですが、さらには疾病予防、健康問題の相談、行動変容、EBM、老年医学、在宅医療、緩和ケア、リハビリ、家族志向のケア、地域包括ケアなど多種多様なことが現場では求められます。まだまだ分からないことばかりですが、様々な訴えに1つ1つ応えていくことで、自分自身の成長を感じるのが楽しい日々です。患者さんや家族、そして地域の住民にとって、自分が役立つためにはどうしたら良いか、悩みながらも少しずつ前進している気がします。このプログラムの良い点は、経験豊富な指導医がいること、臨床を実践する様々な現場があること、多様な研修のニーズに応えてくれることだと思います。1カ所の病院では学びきれないことを、経験し実践することができる数少ないプログラムの一つです。2009年夏に、日本初の家庭医療専門医を取得することができました。日本でも総合医・家庭医になれる時代がやってきました、地域医療に興味のある方は、是非一緒に頑張ってみませんか。

募集要項

応募資格	臨床経験2年以上 または 23年4月までに初期研修修了見込の医師
プログラム責任者	臨床研修センター 副センター長 井上 陽介 国際顧問 オregon健康科学大学家庭医療学(OHSU) ロバート.B. テーラー教授
プログラム内容	上記シニアプログラム参照
研修施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 基幹型臨床研修病院 横須賀市立うわまち病院、市立伊東市民病院、東京北社会保険病院、市立奈良病院、市立大村市民病院 ● 地域病院 石岡第一病院、共立湊病院、公立丹南病院、日光市民病院、西吾妻福祉病院、湯沢町保健医療センター、山中温泉医療センター、市立恵那病院、公立黒川病院、西伊豆病院、村立東海病院、飯塚市立病院、上野原市立病院、台東区立台東病院、東京ベイ・浦安市川医療センター、女川町立病院、池田町立病院 ● へき地診療所等 六合温泉医療センター、安良里診療所、磐梯町保健医療福祉センター（瑠璃の里）、日光市立奥日光診療所、揖斐郡北西部地域医療センター（山びこの郷）、東通村診療所、白糠診療所、田子診療所、公設宮代福祉医療センター、

	<p>揖斐川町春日診療所、いなづさ診療所、 おおい町保健・医療・福祉総合施設、地域包括ケアセンターいぶき、 志摩市地域医療福祉センター、奈良市立田原診療所、 奈良市立柳生診療所、奈良市立都祁診療所、奈良市立月ヶ瀬診療所、 山北町立山北診療所、上野原市立病院附属秋山診療所、 明日香村国保診療所、東京都神津島村国民健康保険直営診療所、 小笠原村診療所、六ヶ所村国民健康保険尾駁診療所・保健相談センタ ー、石岡・平本皮膚科医院、西伊豆病院、福智町立方城診療所 他</p>
待遇・身分	当協会正職員として採用 当協会シニアレジデント給与基準による
定員	8名
選考方法	面接
選考日	場所追って通知いたします(日程が合わない方は個別に調整いたします)
応募提出書類	<p>応募締切日1月末日締切(定員に空きがある場合は募集を継続します)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアレジデント研修申込書 (PDF) http://www.jadecom.or.jp/kenshucenter/seniormoushikomi.pdf ・健康診断書、医師免許証 (写) <p>※当協会臨床研修サイト「地域医療研修ナビ」を是非ご覧下さい 地域医療研修ナビURL : http://www.jadecom.or.jp/chiikinavi/</p>
お問い合わせ	<p>公益社団法人地域医療振興協会 臨床研修センター宛 東京都千代田区平河町2-6-4 海運ビル4階 Emai: kenshuc@jadecom.or.jp TEL : 03-5210-2921 FAX : 03-5210-2924</p>